

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

海津市地域公共交通会議

平成25年12月5日設置

フィーダー系統（デマンド交通）

平成27年6月26日 確保維持計画策定

■ 地域の特性と背景

- 人口約36,000人、高齢化率約30%（H29.4）と高く、人口減少、少子高齢化が進行。
- 市内の公共交通は、養老鉄道、名阪近鉄バス、市コミュニティバス、タクシーで構成。
コミュニティバスは、8路線で運行されていたが、平成27年10月1日より、定時定路線3路線+デマンド交通に再編。平成28年10月1日より、ルート、ダイヤを一部改正。
- 海津市地域公共交通網形成計画を策定（H27.7策定、H29.8改訂（目標値の修正））

○養老線地域公共交通網形成計画策定

平成29年10月24日作成

期間：平成28年度～平成38年度（10年）

○養老線鉄道事業再構築実施計画の認定

平成29年12月21日認可

期間：平成30年1月1日～平成39年3月31日

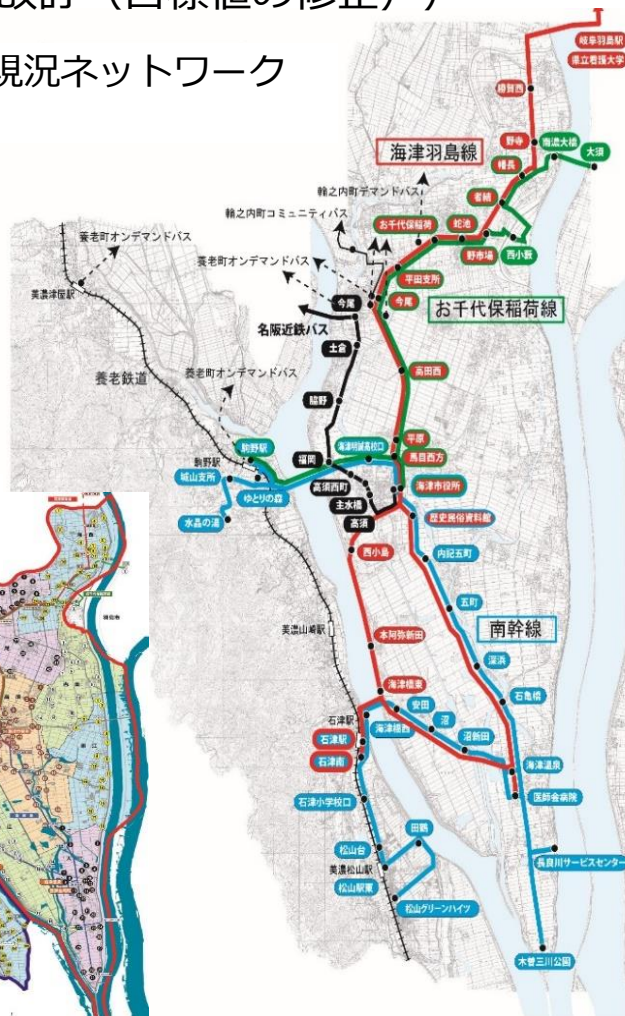
○海津市の主な取り組み（予定を含む）

駅施設整備、バス路線の再編、パークアンドライド駐車場整備、駐輪場整備、免許証自主返納者助成、その他利用促進向上のためイベント開催

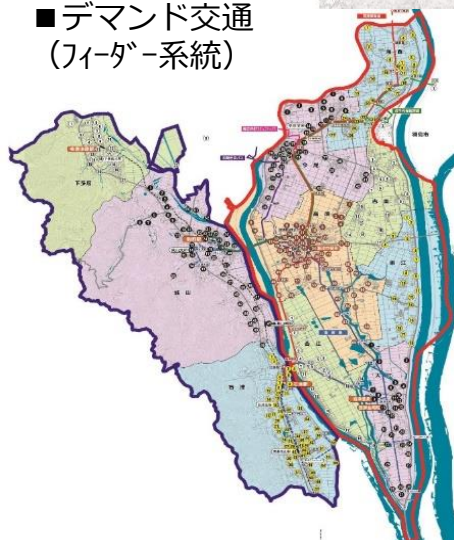
■ 地域公共交通の目指す姿（網形成計画）

まちづくりと連携して日常生活に必要な公共交通を確保することにより、定住促進・地域の活性化を目指す

■ 現況ネットワーク



■ デマンド交通（フィーダー系統）



■公共交通網評価の基本的な考え方

○網形成計画に示した基本方針ごとに評価指標を設定し、達成状況を毎年度に評価

基本方針	目標指標	目標
①養老鉄道・名阪近鉄バスのサービスの充実	養老鉄道・名阪近鉄バス利用者数	維持
②養老鉄道・名阪近鉄バスと海津市コミュニティバスとの接続強化	公共交通機関相互の待ち時間	概ね20分以内
	コミュニティバスが接続する養老鉄道駒野駅・石津駅の乗降者数	維持
③朝夕の通勤・通学対応と昼間の買い物・通院・温泉利用等の市民ニーズ及び観光に配慮した海津市コミュニティバスネットワークの形成	海津市コミュニティバスの利用者数	3 %増
	公共交通機関の便利さについて、不満と回答した市民の割合	1 /3に減少 (今回評価なし)
④公共交通を守り育てる体制づくり	地域ごとに海津市コミュニティバス利用者数の目標値を定め、達成度を評価	市内10地域のうち半数以上が達成

④海津市公共交通利用ガイドの作成

- ・鉄道、路線バス、コミュニティバス、デマンド交通のルート、時刻表
- ・マイ時刻表作成欄を追加

産業まつりの写真



車両購入

[illegible]

■公共交通網形成計画の目標に対する評価

①基本方針1 養老鉄道・名阪近鉄バスのサービスの充実

		目標 (H31年度)	H28年度	H29年度	増減 (H29/H28)	評価	備考
養老鉄道 (市内乗降者数)		2,700人/日	3,180人/日	3,163人/日	▲17人/日	○	平日
	美濃松山	—	905人/日	990人/日	85人/日	—	
	石津	—	637人/日	503人/日	▲134人/日	—	
	美濃山崎	—	173人/日	173人/日	0人/日	—	
	駒野	—	1,122人/日	1,148人/日	26人/日	—	
	美濃津屋	—	343人/日	349人/日	6人/日	—	
名阪近鉄バス (市内乗降者数)		70人	—	— (今年度調査予定)			

【考察】養老鉄道全体の利用者数は横ばい。目標は達成。中学校の統廃合に伴う電車通学により増加。

名阪近鉄バス（海津線）の全体利用者は昨年比で増加しているが、接続強化のためルート・ダイヤ変更を含む見直しの検討

②基本方針2 養老鉄道・名阪近鉄バスと海津市コミュニティバスとの接続強化

■コミュニティバスが接続する養老鉄道駒野駅・石津駅の乗降者数

	目標 (H31年度)	H28年度	H29年度	増減 (H29/H28)	評価	備考
石津駅	490人/日	637人/日	503人/日	▲134人/日	○	平日
駒野駅	900人/日	1,122人/日	1,148人/日	26人/日	○	平日

【考察】目標は達成しているが、石津駅の乗降者数は減少。バスの乗降は増えていることから、周辺地域からの利用減。

③基本方針 3 朝夕の通勤・通学対応と昼間の買い物・通院・温泉利用等の市民ニーズ及び観光に配慮した海津市コミュニティバスネットワークの形成

■海津市コミュニティバスの利用者数

	目標 (H31年度)	H28年度	H29年度	増減 (H29/H28)	評価	備考
コミバス利用者数	113,000人	113,435人	106,872人	▲5.8%	×	平日

【考察】 高校生の利用減により、目標未達成

④基本方針 4 地域ごとに海津市コミュニティバス利用者数の目標値を定め、達成度を評価

	目標 (H31年度)	H28年度	H29年度	増減 (H29/H28)	評価
達成度	市内10地域のうち半数以上	なし	なし	－	－

【考察】 地域との協議はまだできていない

【対応方針】

- 高校生が利用しやすいルート、ダイヤ変更の検討
- 養老線交通圏地域公共交通網形成計画と整合した乗継促進のための方策の実施
- 観光利用の促進（デマンドの観光利用等）
- 地域との協議による利用促進
- 名阪近鉄バスとの接続強化のため、路線見直しを検討

■ 生活交通確保維持改善計画の目標に対する評価

- 海津市コミュニティバス全体の利用者は減少しており、目標未達成。

目標に対する評価	目標	H29実績	目標との増減	評価
海津市コミュニティバスの利用者数	113,000人	106,872人	▲5.4%	×

■ 利用特性の分析

《定時定路線の券種別利用者数の変化》

- 現金、通勤定期は28年度からH29年度で増加。
通学定期は、大幅に減少（H29年度は、H28年度の75.6%）。高校生の通学利用の減少が主な要因。
定時定路線とデマンドとの乗継は年間38人のみであり、少ない。

H28年度 H27.10～H28.9			H29年度 H28.10～H29.9			変化	
定時定路線3路線の 利用者数		券種別 割合	定時定路線3路線の 利用者数		券種別 割合	増加数 H29-H28	増減率 H29/H28
現金	33,245	35.2%	現金	36,293	41.3%	3,048	109.2%
回数券	21,066	22.3%	回数券	20,920	23.8%	△ 146	99.3%
通勤定期	297	0.3%	通勤定期	526	0.6%	229	177.1%
通学定期	39,547	41.8%	通学定期	29,893	34.0%	△ 9,654	75.6%
乗継券	90	0.1%	乗継券	38	0.0%	△ 52	42.2%
無料	271	0.3%	無料	202	0.2%	△ 69	93.0%
合計	94,516	100.0%	合計	87,872	100.0%	△ 6,644	94.5%

《路線別利用者数の変化》

- 海津羽島線は維持。南幹線、お千代保稲荷線は減少。デマンドは増加。

	平成28年度	平成29年度	前年比 (H29/H28)
海津羽島線	48,134	48,609	1.01
南幹線	39,552	33,141	0.84
お千代保稲荷線	6,830	6,122	0.90
定時定路線合計	94,516	87,872	0.93
デマンド交通	18,601	19,000	1.02
総合計	113,117	106,872	0.94

《鉄道駅のバス乗降者数》

- 石津駅は増加。他の駅は減少。

バス停	H29年度バス乗降者数	対前年比
駒野駅	9,928	0.97
石津駅	7,334	1.41
岐阜羽島駅	32,856	0.90
合計	50,118	0.97

【考察】

- 全体的に、高校生の利用減。
- 海津羽島線は、海津温泉・石津駅まで延伸したため、石津駅の乗降及び温泉利用が増加。一方、高校生の利用減で岐阜羽島駅の乗降が減少。利用者数は増減が相殺され、維持。
- 南幹線は高校生の通学利用減により、利用者数は減少。
- デマンドは増加。最も利用の多いのは、海津温泉への利用。
- 定時定路線とデマンドの乗継は少ない。

【対応方針】 目標値の修正（H29年の確保維持改善計画では、110,000人に設定）
養老線との連携強化（鉄道との乗継ダイヤの広報等による通学、観光利用促進）
【平成30年 1 月10日の公共交通会議で協議】

【課題】

- 目標の達成状況に関する課題
 - ・海津市コミュニティバスの利用者数は減少傾向。
 - ・特に高校生の利用減。
 - ・人口減少が進む中で、生活交通だけでなく、観光交通への対応等についても検討が必要。
- コミュニティバスとデマンドとの乗継は少ない
- 利用促進に向けて、養老線沿線地域との一体的取組みを推進することが必要

**【対応方針】**

- ①利用実態及びニーズにあったダイヤ等の見直し（南幹線）
- ②1日券等、観光客が公共交通を使いやすい仕組みの検討
- ③団体観光客受け入れのためのデマンド交通予約方法等の検討
- ④養老鉄道とバスとの乗継ダイヤの広報の充実
- ⑤地域との協働の取組（利用促進に向けた住民意見交換会等の開催）
- ⑥観光タクシーの運行を検討
- ⑦名阪近鉄バスとの接続強化のため、路線見直しの検討

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

海津市地域公共交通会議

平成25年12月5日設置

フィーダー系統 平成27年6月26日 確保維持計画策定

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
①8路線から、3路線+デマ ンドに再編した際に、利用 者が逸走したとすれば、目 標値の再設定を行う必要が ある。	網形成計画の目標値を再 設定した。(H27.7策定、 H29.8改訂)	再設定した目標の達成を 目指す。
②コミュニティバスとデマ ンド交通を区分し、それ ぞれの利用者数や乗継な ど、詳細を整理した上で 、課題や対応策を検討し ていただきたい。	券種別の利用者数、乗継 などのデータを整理した 結果、高校生の通学利用 減少が重要な課題と認 識。	利用増を図るため、コ ミュニティバスのルート 、ダイヤについて、利用 者アンケート等をもとに 検討する。
③養老線との連携を考慮 した場合、網形成計画の 中間見直しを早め、対 応策を検討する必要が ある。	養老線とバスとの乗継に 配慮したダイヤとした。	下記④の検討と合わせ て、養老線交通圏地域公 共交通網形成計画の整 合性を実施したい。
④養老線を考慮した場合 、海津温泉や海津明誠 高校を連絡する路線の 充実が必要。	海津羽島線のルートを 海津温泉、石津駅まで 延伸した。南幹線のダ イヤを、駒野駅での乗 継に考慮したものに 変更。	当面は、乗継ダイヤの 周知(チラシ作成等の 広報の充実)を実施。 利用者ニーズの把握を 踏まえて、南幹線ルー トの改善を実施。(グ リーンハイツ～市役 所、水晶の湯～お千 代保稲荷に分割など 、ニーズにあった運 行)

《利用実態に合わせてデマンド交通の一部を固定ルート化し、効率運行を実現》

2台の車両を同じ目的地まで運行していたが、利用者は固定されていることから、個別に予約時間の調整をお願いし、運行時刻とルートを固定化し、1台の車両での運行を実現できた。固定ルート化は何パターンも作ることができている。これにより、デマンド交通車両に余裕が生まれ、他の利用者の運行に活用できるようになり、効率化が図られた。

《高齢者の運転免許証の自主返納を推進》

デマンド交通を利用する際に、免許証を自主返納した人に渡される運転経歴証明書を持すれば、運賃が半額になる制度を実施。

これまで自主返納は月平均1人だったが、制度開始後に5人が申請するなど、効果が発揮されている。

津市高齢者運転免許証自主返納支援事業

～津市では運転免許証を自主的に返納された方を支援します～

高齢者が被害者・加害者となる交通事故を減少させるため、運転免許証の自主返納者に対し、自動車に代わる交通手段として利用できる公共交通機関の回数券等を無料に交付します。少しでも運転に不安を感じている方は、運転免許証の返納をぜひご検討ください。

対象者

以下の条件をすべて満たす方

- 津市の住民基本台帳に記録されている方、または、津市に外国人登録されている方で、満年齢80歳以上の方
- 有効期限内の運転免許証を自主返納した方

※失効した運転免許証は対象外となりますのでご注意ください。

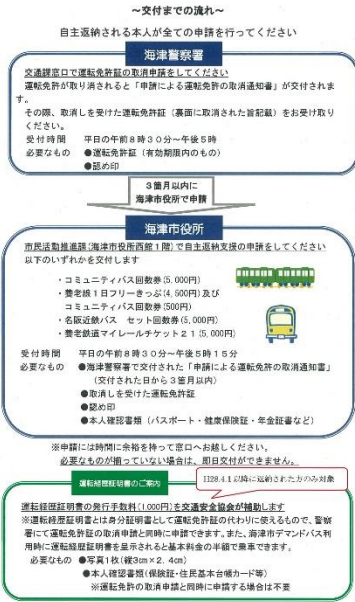
支援内容

以下のいずれかを無料で交付します。

- ・コミュニティバス回数券(5,000円)
- ・豊巻鉄道1日フリーきっぷ(4,100円)及びコミュニティバス回数券(500円)
- ・名鉄近鉄バス・セト回数券(5,000円)
- ・豊巻鉄道マイレールチケット2.1(5,000円)

この支援事業は1人1回限りです。

問い合わせ 津市市民課 市民活動推進課 市民活動推進係 ☎0584-53-3164



返納事業PR活動



《駅前整備との連携》

昨年度は美濃津屋駅、今年度は美濃山崎駅で駐輪場を整備しており、養老鉄道の利用増に貢献。来年度以降、駒野駅の駅前整備も実施予定。美濃松山駅においては、パークアンドライド用駐車場整備（25台）を予定している。



駐輪場整備



《養老鉄道を利用したイベント企画開催》

養老鉄道を利用した養老山脈のトレイルランニングレース（養老鉄道利用者を600人以上を想定）を来年度実施予定。養老鉄道の利用者数増加を期待。海津市・養老町・桑名市等関係機関の協力を得て開催。公共交通を利用しなければ開催できないコース設定



地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成30年1月10日

協議会名： 海津市地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名 等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運 行(航)区間、整備内容等を記 載(陸上交通に係る確保維持 事業において、車両減価償却 費等及び公有民営方式車両購 入費に係る国庫補助金の交付 を受けている場合、離島航路 に係る確保維持事業において 離島航路構造改革補助(調査 検討の経費を除く。)を受けて いる場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間に おいて、前回の事業評価結果 をどのように生活交通確保維 持改善計画に反映させた上で 事業を実施したかを記載】	A・B・C 評価 【計画に基づく事業が適切 に実施されたかを記載。計 画どおり実施されなかった 場合には、理由等記載】	A・B・C 評価 【計画に位置付けられた定 量的な目標・効果が達成さ れたかを、目標ごとに記 載。目標・効果が達成でき なかった場合には、理由等 を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより 適切な目標を記載。改善策は、 事業者の取り組みだけでなく、 地域の取り組みについて広く記 載。特に、評価結果を生活交 通確保維持改善計画にどのよ うに反映させるか(方向性又は 具体的な内容)を必ず記載する こと。】 ※なお、当該年度で事業が完 了した場合はその旨記載
スイトラベル株式会社	デマンド交通 市内全域355か所、市外3か所 の停留所	デマンド交通の利用者数は増 加傾向であるが、コミュニティバ ス3路線(補助対象外)の利用 者数が減少。このため、海津羽 島線について、海津温泉及び 石津駅まで延伸したルート及び ダイヤ変更を実施。	A 評価 補助対象期間の開始日以 来、運休・遅延等はなく、計 画どおり適切に実施されて いる。	B 評価 海津市コミュニティバス(デ マンドを含む)の年間利用 者数の目標113,000人 →H29年度実績は、106,872 人/年であり、未達成 デマンド交通の利用者数は H28年度と比べて増加。コ ミュニティバスの高校生の 通学利用減少が主要要因。	《取組》 デマンド交通については、順 調に利用者数が増加している が、コミュニティバスを含めた全 利用者数の増加を図るため、 以下の取組を進める。 ①利用実態及びニーズにあっ たダイヤ等の見直し ②1日券等、観光客が公共交 通を使いやすい仕組みの検討 ③団体観光客受け入れのための デマンド交通予約方法等の 検討 ④養老鉄道とバスとの乗継ダ イヤの広報の充実 ⑤地域との協働の取組(利用 促進に向けた住民意見交換会 等の開催) ⑥観光タクシーの運行 これらの取組を生活交通確保 維持改善計画に反映し、利用 者増につなげていく。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成30年1月10日

協議会名:	海津市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域公共交通確保維持事業(陸上交通における地域内フィーダー系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	海津市では8路線の定時定路線型コミュニティバスを、隣接市・鉄道駅と接続し通勤・通学利用が可能な広域移動用の幹線3路線(海津羽島線、南幹線、お千代保稻荷線。定時定路線型)と、主に昼間の買い物・通院・温泉利用を想定したデマンド交通に再編し、養老鉄道・名阪近鉄バスによる広域幹線との接続を図るとともに、隣接する養老町・輪之内町・羽島市のコミュニティバス・デマンド交通とも広域連携し、地域全体として利便性の高いネットワークを構築する。 この公共交通再編事業の実施を円滑かつ効果的に実施し、海津市のまちづくりと広域との連携による公共交通サービスを維持するため、地域公共交通確保維持改善事業を実施する。 ◆ 公共交通の将来像 【まちづくりと連携して日常生活に必要な公共交通を確保することにより、定住促進・地域の活性化を目指す】 ◆ 公共交通の基本方針 ①養老鉄道・名阪近鉄バスのサービス充実 ②養老鉄道・名阪近鉄バスと海津市コミュニティバスとの接続強化 ③朝夕の通勤・通学対応と昼間の買い物・通院・温泉利用等の市民ニーズ及び観光に配慮した海津市コミュニティバスネットワークの形成 ④公共交通を守り育てる体制づくり